



システム基盤構築に向けて システム間連携の標準化事例

2023年 3月16日
株式会社イグアス
事業管理本部 IT企画部
貝塚 修

Copyright 2021. IGUAZU Corporation

会社概要



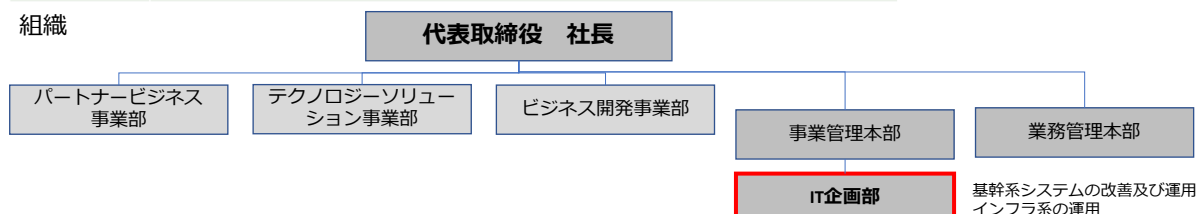
会社概要

| | |
|---------|---|
| 社名 | 株式会社 イグアス |
| 所在地(本社) | 神奈川県川崎市幸区堀川町 5 8 0 番地 ソリッドスクエア西館 2 1 F |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ディストリビューション事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ IBM社をはじめとする各種メーカーのハードウェア製品を提供 ・ ISPプリンターサプライ、磁気メディア等主要メーカーのサプライ用品を提供 ・ソリューション事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ IBMソフトウェア製品、ISVソリューション製品等最新の製品を提供 ・ ハードウェア/ソフトウェア製品の技術検証からアフターフォローまでノンストップで提供 ・戦略事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ Webビジネス/ 3Dプリンター/サービスロボット/スマートパワー |
| 関連会社 | 株式会社アルファ・コミュニケーションズ イーストン株式会社 |

<沿革>

2005年 パートナ-事業分割準備株式会社 設立
2006年 (株)イグアスへ商号変更
2008年 サプライバンク(株)を経営統合
2009年 3Dプリンター事業開始
2011年 サプライバンクドットコム開設
2013年 本社川崎へ移転
川崎3Dショールーム開設
2014年 リサイクルバッテリー事業開始
2015年 リリ-ション検証センター (ISC)開設
2016年 3Dソリューションセンター開設
2017年 JBグループから独立
2018年 クロスディーと経営統合
2019年 (株)アルファコミュニケーションズ
を子会社化
2020年 イーストン株式会社を子会社化

組織

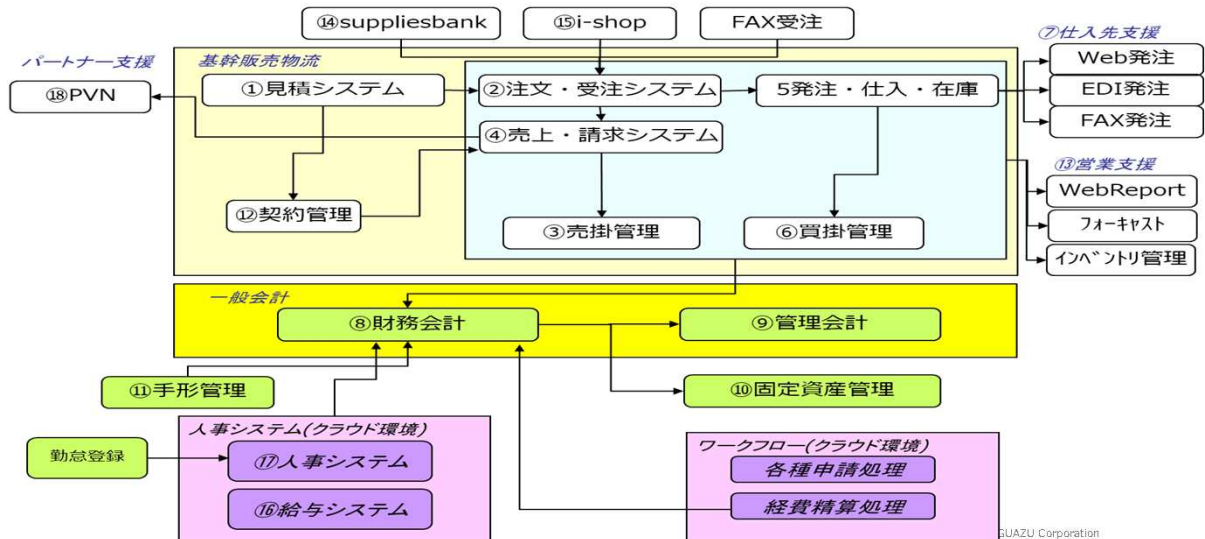


Copyright 2021. IGUAZU Corporation

イグアス 基幹システム概要図

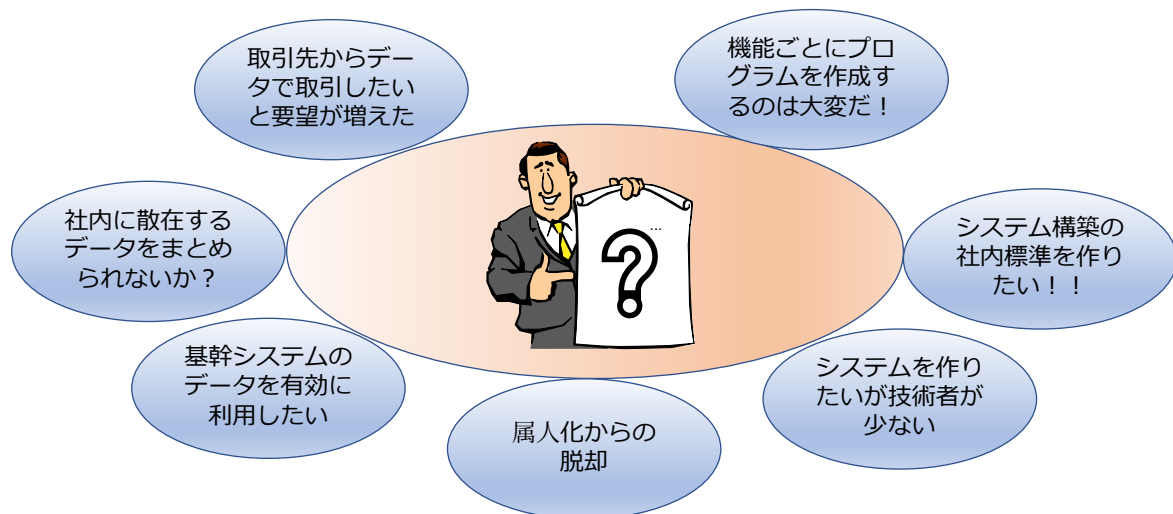
iguazu

イグアス 社内システム全体図

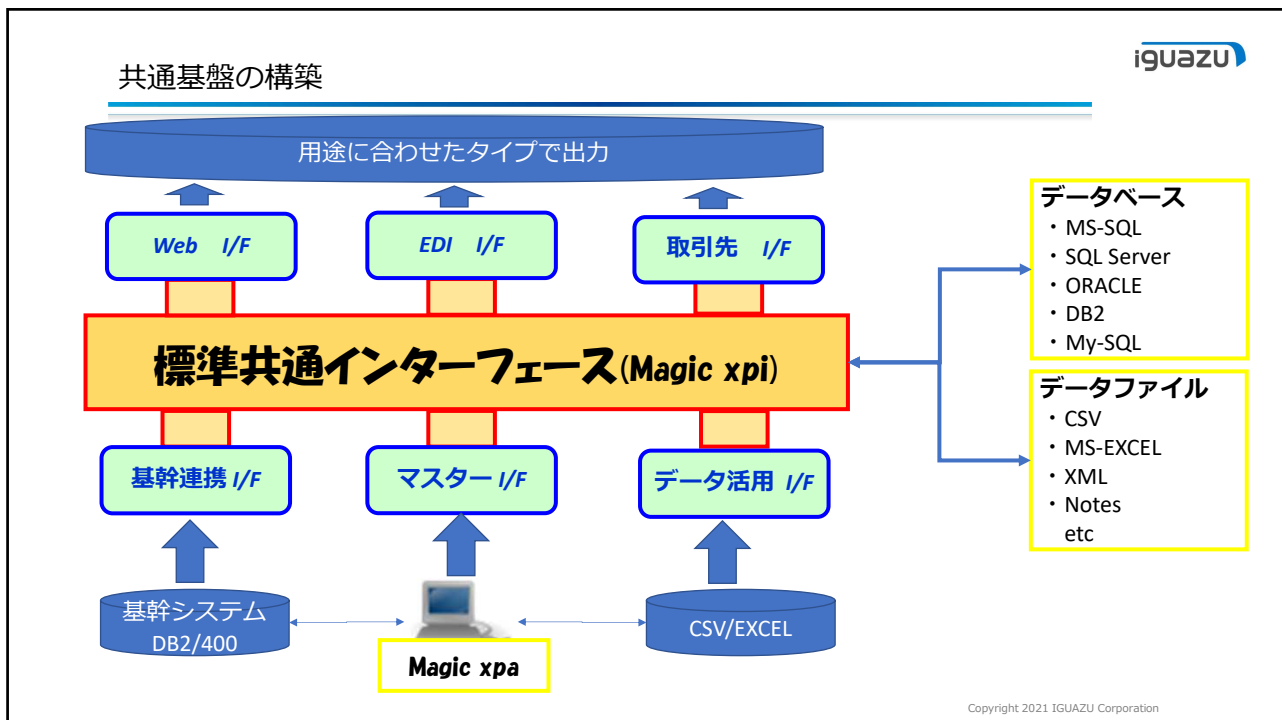
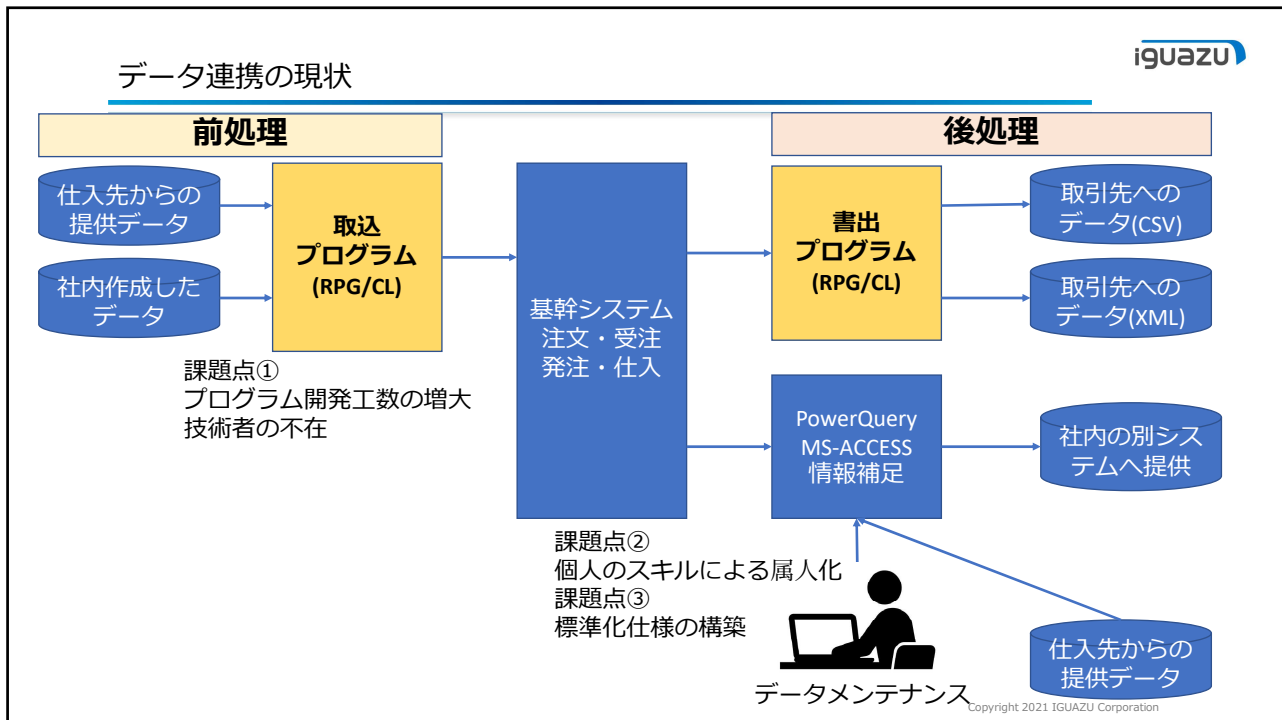


システム構築のわけは？

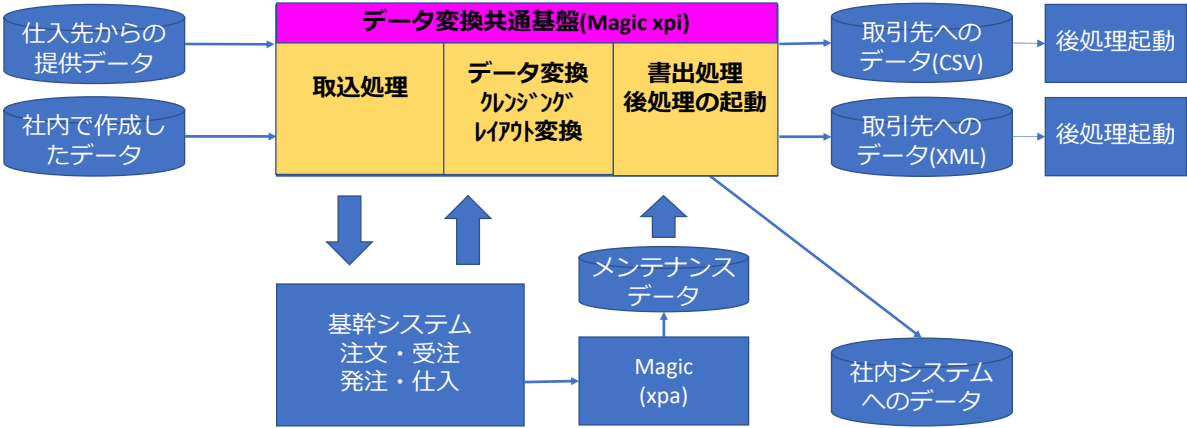
iguazu



Copyright 2021 IGUAZU Corporation



データ連携その後



Copyright 2021 IGUAZU Corporation

導入の目的



| 導入の目的 | 現状 | 改善（追加）理由 |
|--------------------------------|--------------------------------------|---|
| ① 基幹システムとのデータ連携をプログラミングレスで構築する | 機能ごとに基幹システム側、PC側それぞれでプログラム作成して構成している | 外部システムとデータ連携を行うたびにプログラム構築が必要となるため、開発工数が増大 ①Webサイトの受注データとの連携 ②取引先提供のシステムとの連携 |
| ② 社内に散在している既存システムの統一化を図る | MS-Access等で部門特有のシステムを構築し、運用を行っている | 部門ごとに作成しているため属人化しているため (MS-Accessの排除) ①Web用商品マスタの生成 |
| ③ 新規システム構築時の標準化を図る | 開発案件ごとにデータ連携機能を構築 | 開発基準およびスキルの標準化でより安定した品質を提供 ①外部システムとのシームレスな連携 |

Copyright 2021 IGUAZU Corporation

各ツールの評価はどうしたの？



評価するにあたっては

①各ベンダーで説明頂きました資料ベースで検討を開始

②ご提案の際にデモンストレーションにより機能を確認

③実際に各ツールを使用してシステムを構築されている部署の評価を伺う

さらに

④開発者が無料セミナーを受講して実際に開発ツールを触ってみて、その使用感を実感して評価

Copyright 2021 IGUAZU Corporation

ツール比較



| | | Magic xpi | Tool-B | Tool-C |
|---------|----------------------|--|---|---|
| 特 徴 | | EAIとして実績のある製品、イスラエル企業の製品を日本法人がローカライズ、日本法人独自拡張も可能。 | ローエンド、ハイエンド向けバージョンがあるEAI製品。サードベンダーによるアダプター開発が盛ん行われている | 大容量データベースを高速に取り出し可能。クラウドサービス、他アプリケーションとの親和性が高い。 |
| 接続性 | 接続実績 | ◎ ・接続アダプタ種=60種類以上 | ◎ ・接続アダプタ種=60種類以上 | ○ ・接続アダプタ=50種類以上 |
| | アーキテクチャ (Cloud対応の可否) | × ・本来オンプレ製品のPrivate Cloudによるシステム構築のためクラウド時のスケール対応が不安要素 | ○ ・本来オンプレ製品のPrivate Cloudによるシステム構築のためクラウド時のスケール対応が不安要素 ・別サービスでクラウドあり | ○ ・本来オンプレ製品のPrivate Cloudによるシステム構築のためクラウド時のスケール対応が不安要素 ・別サービスでクラウドあり |
| ビジネス | 価格の柔軟性 | ◎ ・日本代理店が価格設定権を握るため柔軟に対応可能 | × ・正規製品+アダプター開発ベンダーとのSI案件になる。 ・サブスク対応でライセンスが高額になり、別途開発費も必要 | × ・ライセンスが高額になる |
| | 案件対応力 | ○ ・オンプレデータ連携アダプター開発に積極的に検討 ・他業務システム連携も対応可能 ・ベンダーが直接シナリオ開発の受託が可能。 | ◎ ・都度SI案件として開発委託を発生させる必要あり ・開発会社にて開発実績あり。 | × ・都度SI案件として開発委託を発生させる必要あり |
| メンテナンス性 | 運用体制 | ◎ ・Azureで運用可能であるため、既存のインフラに追加した監視体制が構築可能 | ◎ ・Azureで運用可能であるため、既存のインフラに追加した監視体制が構築可能 | ◎ ・Azureで運用可能であるため、既存のインフラに追加した監視体制が構築可能 |
| | 保守体制 | ◎ ・OBCなど、接続先ベンダーと直接やり取りできるため、ハンドリング工数が最小限に抑えられる。 | ○ ・通常の製品購入と変わらない内容。 ・SIベンダーとの保守契約が必要になり、コスト高になる。 | ○ ・SIベンダーとの保守契約が必要になり、コスト高になる。 |

※評点の高い「Magic xpi」が最適と考える

Copyright 2021 IGUAZU Corporation

9

導入の目的と期待される効果

iguazu

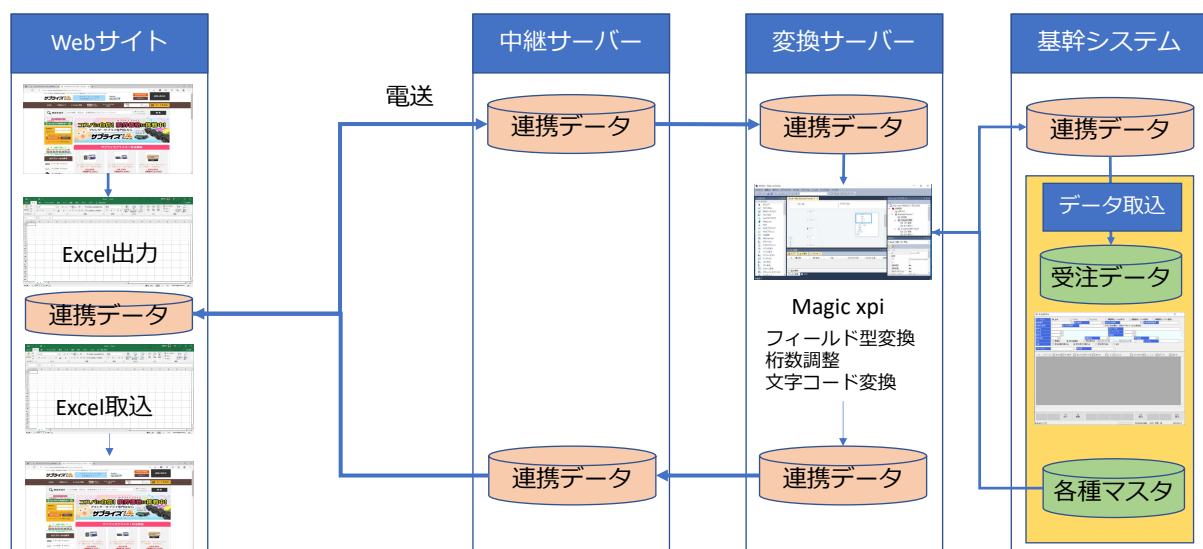
| 導入の目的 | 現状 | 改善（追加）理由 |
|----------------------------|--|--|
| ① 基幹システムとのデータ連携をプログラムで構築する | 外部システムとデータ連携を行うたびプログラム構築が必要となるため、コストが増大 受注データの連携 提供のシステムとの連携 | <div> 工期短縮 高度なスキルなくシステムを構築 </div> |
| ② 社内に散在している既存システムの統一化を図る | MS Access等で部門特有のシステムを構築しているため属人化し、メンテナンスの排除 品マスタの生成 | <div> アプリケーションの統廃合 システムの属人化を排除 </div> |
| ③ 新規システム構築時の標準化を図る | 開発案件ごとにデータ連携機能を構築しているため品質を提供 システムとのシームレスな連携 | <div> 開発基準の標準化 仕様変更時の柔軟な対応 </div> |

Copyright 2021 IGUAZU Corporation

10

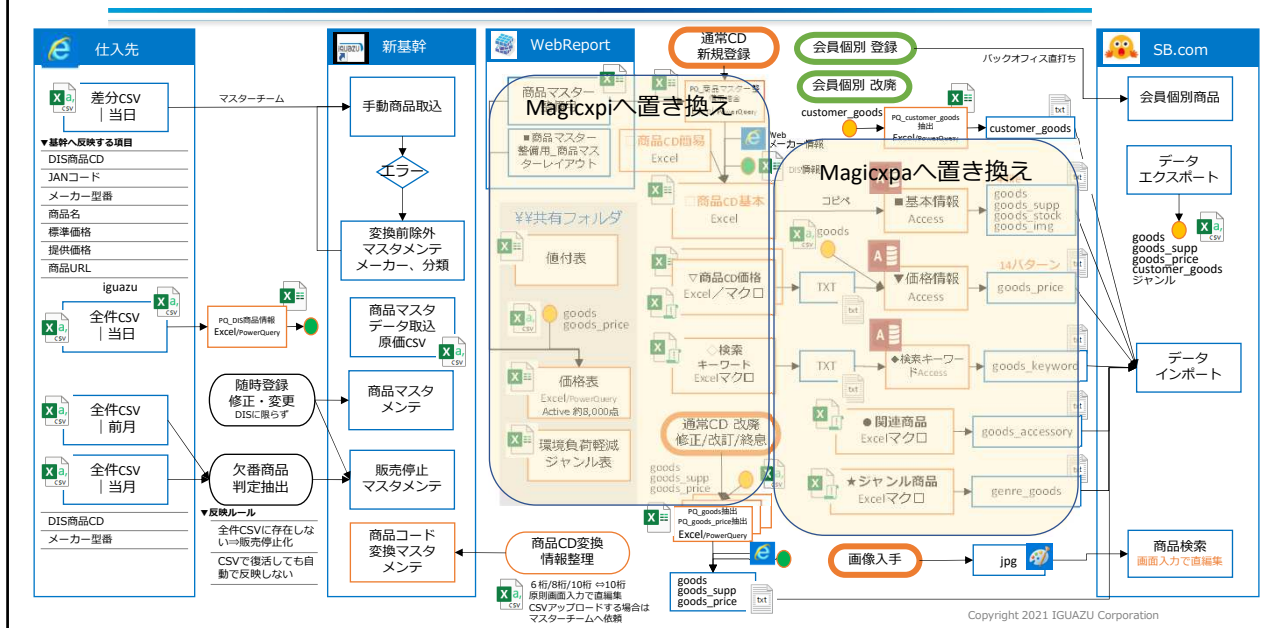
事例① 基幹システムとのデータ連携

iguazu

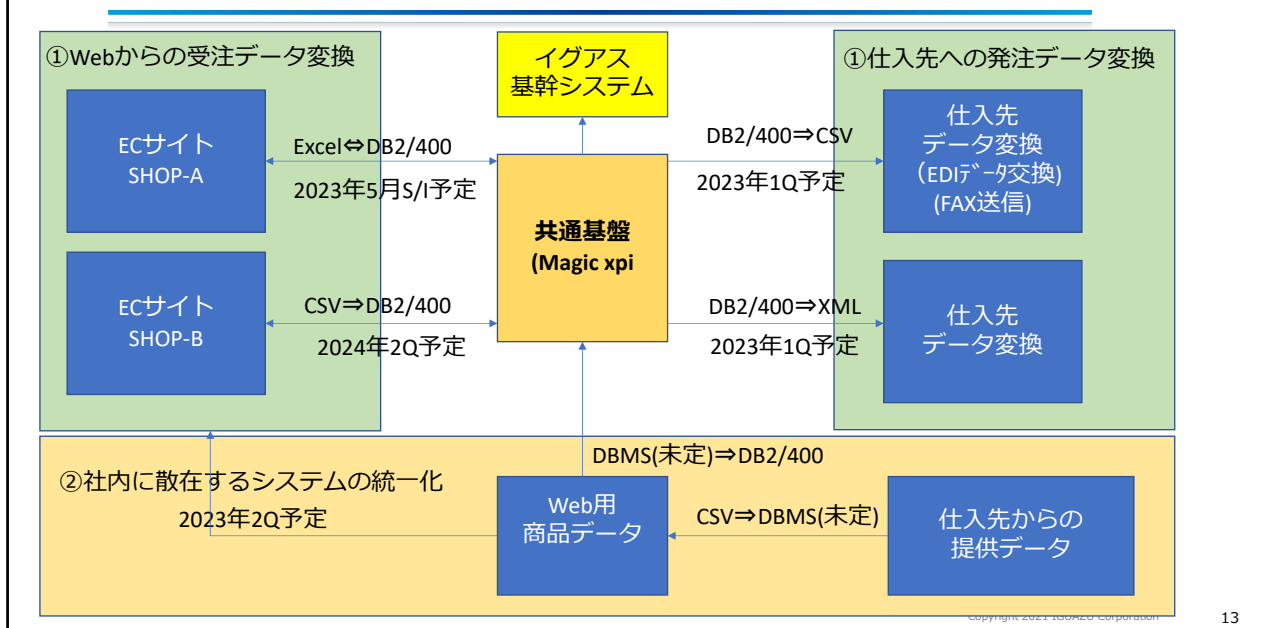


Copyright 2021 IGUAZU Corporation

事例② 社内に散在するデータと連携



今後の導入予定



ご清聴ありがとうございました

Copyright 2021 IGUAZU Corporation

iguazu